

エコアクション21 環境活動レポート 2017年版

対象期間2017年1月1日～2017年12月31日



発行日 2018年2月3日

目 次

1 組織の概要

- 1) 登録事業者の概要
- 2) 沿革
- 3) 設備概要

2 対象範囲

- ・環境経営組織図

3 環境方針

- ・環境理念 環境方針

4 環境目標

- 1) 中期目標
- 2) 2017年環境目標

5 環境活動計画

6 環境目標の実績

7 環境活動計画の取り組み結果の評価、次年度の取り組み内容

- 1) 環境活動計画の取り組み結果の評価
- 2) 環境への取り組みの自己チェックの分析評価
- 3) 次年度への取り組み内容

8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

- 「環境法令等遵守チェック表」より

9 代表者による全体評価と見直しの結果

- マネジメントレビューより

10 その他の取り組み

- 総合防災訓練他

1 組織の概要

1) 登録事業所の概要

- (1) 事業者名 平澤電機株式会社
 代表者名 代表取締役 平澤 一司
- (2) 所在地 本社・工場 〒399-4431長野県伊那市西春近2900番地
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
 環境管理責任者 専務取締役 平澤 敏樹
 担当者 総務部長 浦野 安明
 連絡先 電話 0265-72-4136 FAX 0265-76-1990
 ホームページ <http://www.hirasawadenki.com/>
 e-mail info@hirasawadenki.com

(4) 事業の規模等

- 1) 創業 昭和35年7月
 2) 事業規模 右表
 3) 資本金 1050万円

活動規模	単位	2015年	2016年	2017年
生産量	百万円			
売上高	百万円	418	399	473
従業員	人	40	45	50
床面積	m ²	7260	7260	7260
()	()			

(5) 事業内容

アルミを中心とした金属の精密切削加工、組立・検査

2) 沿革

昭和35年	日立家電販売修理を業務として平澤電機株式会社を設立
昭和40年	工作所設立、オリンパス製品加工開始
昭和43年	オリンパス顕微鏡組立開始
昭和49年	オリンパス光学、カメラ組立開始
昭和59年	本社工場(延べ床面積3,300m ²)建設工作所・中央工場を併合集約
昭和63年	姉妹会社(株)アジアエレクトロニクス設立
平成 元年	信濃特機(株)子会社の天竜特機(株)を引き継ぎグループ3社とする
平成 2年	資本金1,050万円に増資
平成 7年	本社工場南側増築工事完了
平成 9年	本社工場北側増築工事完了
平成12年	ISO9001取得
平成17年	1F北側工場改築(延べ床面積5,980m ²)
平成18年	環境 エコアクション21取得
平成19年	北側新工場建築(5軸加工機専用)(延べ面積7260m ²)
平成20年	厚生労働省快適職場認定
平成21年	エコ通勤優良事業所認証
平成25年	長野県労働局長奨励賞受賞
平成27年	エコアクション21 登録・認証10年継続事業者表彰

1 組織の概要

3) 設備概要

5cmから5mまでのアルミの精密切削加工を得意としております

種類	メーカー	型式	テーブルサイズ	特徴	台数	
マシニングセンタ★	安田工業	YBM-1200N	X3000 Y2100 Z1500	横型 4パレット仕様	1台	
	★ 新日本工機	RB-350F	X8000 Y3500 Z1700	門型 5軸	1台	
	東芝機械	MPF-3140DS	X4000 Y3100 Z715	高速門型	1台	
	牧野フライス	a51	X560 Y560 Z560	横型	1台	
	牧野フライス	A55-A128	X560 Y560 Z560	横型 8パレット仕様	1台	
	牧野フライス	A55-A288	X560 Y560 Z560	横型 8パレット仕様	1台	
	★ 牧野フライス	A77	X800 Y750 Z770	横型 16パレット仕様	1台	
	★ 牧野フライス	a81	X900 Y800 Z1020	横型 8面パレット	1台	
	★ 牧野フライス	a61	X730 Y730 Z680	横型 5軸立体3段パレット	1台	
	2017年9月新規★	牧野フライス	a51nx	X560 Y640 Z640	横形 立体3段パレット仕様	1台
	牧野フライス	FNC156	X1500 Y600 Z560	立型	1台	
	牧野フライス	GN1712	X1700 Y1200 Z700	立型	1台	
	★ 牧野フライス	MC1513	X1500 Y1300 Z1000	横型 6パレット仕様	1台	
NC旋盤	ツガミ	NU4Y	X135 Y50 Z190	同機種 他に2台	1台	
	★ ヤマザキマザック	INTEGREX200-ⅢS	X580 Y160 Z1045		1台	
	★ ヤマザキマザック	INTEGREX300-ⅢS	X630 Y230 Z1585	背面加工可能	1台	
	ヤマザキマザック	INTEGREX300Y	X580 Y210 Z1095		1台	
NCフライス盤	森精機製作所	ZL-250MC	X235 Y170 Z615		1台	
	牧野フライス	AEV-85	X850 Y500 Z400		1台	
三次元測定器	★ ミットヨ	Bright-Apex1220	X1205 Y2005 Z1005		1台	
	ミットヨ	CRYSTA-Apex S9106	X905 Y1005 Z605		1台	

★・・・主要設備

CAD/CAM情報

使用しているCAD/CAMソフト

VERICUT (CGTech)

AutoCAD (オートデスク株式会社)

NCVIEW (シンプルテック株式会社)

CAM-STAFF (株式会社ソフテック)

Mastercam (CNC Software, Inc.) 3台

SolidWorks (ダッソー・システムズ株式会社) 3台



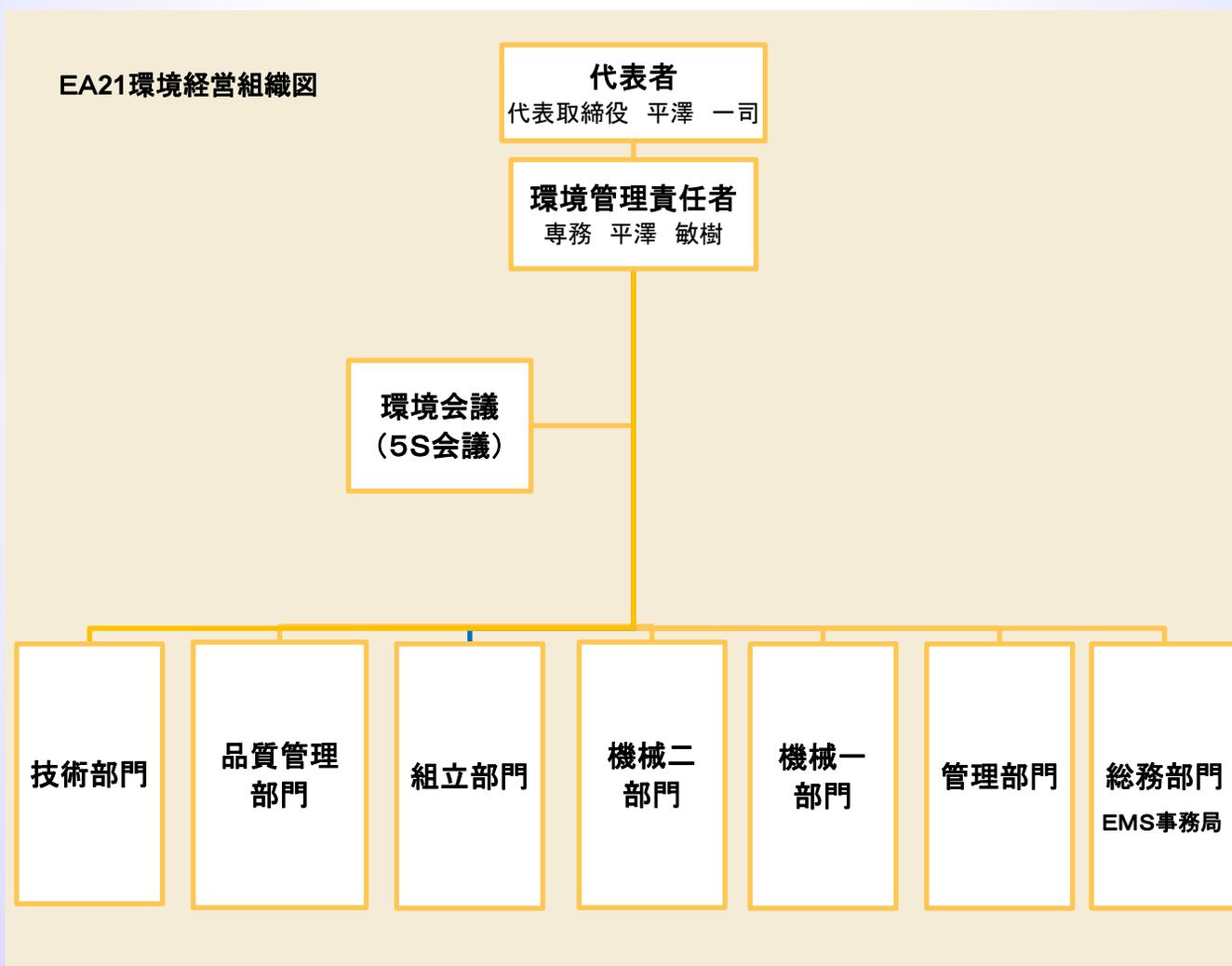
2 対象範囲

対象期間: 2017年1月1日～2017年12月31日

発行日: 2018年2月3日

対象範囲: 長野県伊那市西春近 2898番地～2900番地にある平澤電機株式会社の所有するすべての土地・建造物とそこで働く全従業員が対象組織であり、その組織のすべての活動をもってエコアクション21に取組み、環境経営システムを構築、運用、維持するものとする。

平澤電機株式会社は以下の組織に基づき環境活動を行っている。



3 環境方針

<平澤電機株式会社 環境方針>

環境理念

自然環境に優れたこの地に存在する私達平澤電機株式会社は、この豊かな自然環境に感謝と誇りの念を持ち、一人ひとりが自主的な環境保全の意識を持って環境負荷低減に向けた活動を行い、人と地球にやさしい工場作りを目指します。

環境方針

- 1.環境関連の法規制や当社が約束したことを遵守します。
- 2.製造部門での品質安定化・製造工程短縮化によって二酸化炭素排出量・使用化学物質・廃棄物・水の使用量の削減、及び省資源の推進をはかります。
- 3.事業活動によって生じる廃棄物のリサイクル化に取り組みます。
- 4.環境や資源に配慮した製品や原材料調達を心がけます。
- 5.水質汚濁の防止に努めます。
- 6.全従業員に朝礼、会議、研修、掲示等でこの環境方針を周知・理解させ、環境に関する教育訓練を行います。
- 7.従業員にエコ通勤をすすめ、社用車でのエコ運転の実施に努めます。
- 8.環境目的・目標を定め、それに取り組み定期的に見直しをすることにより環境マネジメントシステムの継続的な改善を行います。

制定日 2010年8月20日
平澤電機株式会社
代表取締役社長

平澤 一司



4 環境目標

1) 中期(2016-2018)環境目標は以下の通り

環境目的	具体的目標	責任者 / 対象部門	基準年度 / 基準値	2016年	2017年	2018年
二酸化炭素排出量削減	電気料金削減・デマンド管理 ▲	専務/全社	2015年8月～月間ピークデマンド	350kw以下	350kw以下	350kw以下
				2つのデマンドコントローラー制御・節電・空調設備管理 電気料金削減の工夫		
	冬季(12月～2月)を除いたエコ通勤の維持継続・エコドライブ実施 ▲	総務・管理部門長 / 全社	2015年目標値 / エコドライブ実施	27日/月以上	28日/月以上	29日/月以上
			エコ通勤呼びかけ・イベント参加 社用車のエコドライブ実施			
廃棄物排出量削減	可燃ゴミ・廃油削減維持・廃棄物管理 ▲	総務部門長/機械1	2015年目標値 / 可燃ゴミ160kg / 月以下 廃油2.17t / 月以下	1%削減	2%削減	3%削減
				ゴミのリサイクル促進・マニフェスト等管理		
	機械・備品の長期使用 ◆	製造部門長	部門目標	各部門目標	各部門目標	各部門目標
			各種メンテ・点検の実施・修理実施・部品リサイクル促進			
水源投入量削減	水源投入量維持管理・有効活用 ▲	専務・総務部門長 / 機械1・2部門・全社	110t ¹ /月以下 ※7月～9月を除く月投入量目標	110t以下	110t以下	110t以下
				漏水チェック、洗浄・バレル水節水・切削水管理 夏場の有効活用検討		
化学物質使用量削減	使用禁止物質の使用禁止★ 使用化学物質削減管理	管理部門長 製造部門長	維持 部門目標	部門目標	部門目標	部門目標
				取引先使用禁止物質調査・維持 部門使用化学物質管理削減		
グリーン購入の実施	グリーン購入継続維持★	総務部門長 管理部門長	活動維持	部門目標	部門目標	部門目標
				グリーン調達手順に添った購買活動・グリーン調達先管理		
製品への環境配慮その他	売上・利益UP ◆	総務・管理・技術	部門目標	各部門目標	各部門目標	各部門目標
				新規取引先の開拓・各種経費削減・本業強化		
	工程時間削減・環境負荷削減の工夫 ◆	製造部門長 技術部門長	部門目標	部門設定	部門設定	部門設定
				工数把握、工程短縮方法の検討、プログラム修正・コスト削減 工夫 検証		
不良損金削減 ▲	品質管理部門長	品質管理部門長	品質目標と同じ	部門設定	部門設定	部門設定
				不良損金集計表の作成・掲示、不良発生原因調査・対策実施		

目標値は ★継続目標 ▲数値目標(基準値あり) ◆部門目標 として展開する

4 環境目標

2) 2017年環境目標は以下の通り

環境目的	具体的目標	責任者/対象	目標値等
二酸化炭素排出量削減	電気料金削減・デマンド管理	専務/全社	ピークデマンド350kw以下
	冬季(12月~2月)を除いたエコ通勤の維持継続・エコドライブ実施	総務・管理部門長/全社	月平均 28日以上 ※1.2.12月を除く
廃棄物排出量削減	可燃ゴミ・廃油削減維持・廃棄物管理	総務・機械1部門長/全社	可燃ゴミ157kg/月 廃油2.13t/月以下
	機械・備品の長期使用	製造部門長	各部門目標
水源投入量削減	水源投入量維持管理	専務・総務部門長/機械1・2部門・全社	110 ^{トン} /月以下
化学物質使用量削減	使用禁止物質の使用禁止使用化学物質削減管理	管理部門長 製造部門長	維持 部門目標
グリーン購入の実施	グリーン購入維持	総務部門長 管理部門長	維持
製品への環境配慮 その他	売上・利益UP	総務・管理・技術	各部門目標
	工程時間削減・環境負荷削減の工夫	製造部門長 技術部門長	各部門目標
	不良損金削減	品質管理部門長	月24万以下

5 環境活動計画

部門活動計画

2017年活動計画内容

★は全社対応

部門名	環境目的	部門目標	活動計画内容
総務部門	二酸化炭素排出量削減	エコ通勤の実施 月平均27日以上★ 最大デマンド 350kw以下★	①自転車置き場の整備、管理 ②全社へエコ通勤の呼びかけと月ごと部門実績表の掲示 ③ノーマイカーウィーク参加 ④電気使用量・デマンド監視
	廃棄物排出量削減	可燃ゴミの削減 157kg/月以下★	①リサイクルゴミの仕分け徹底 月ごと全社廃棄物排出量結果表の掲示 ②コピー用紙の両面使用、減紙
	水源投入量削減	水源投入量の維持・管理 110t/月以下★	①全社の毎月の全社使用量の把握と分析、グラフ作成掲示 ②水漏れ点検 ③夏季地下水有効活用
	グリーン購入の実施	事務用品のグリーン購入活動の維持	①グリーン調達ガイドに沿った事務用品購入
	製品への環境配慮 その他	経費節減・節約(年5件)	経費分析、節約削減、効果確認
管理部門	二酸化炭素排出量	電気使用量監視と削減 エコ通勤・エコドライブの呼びかけ	①電気使用量監視と削減 ②安全運転、エコ通勤エコドライブの呼びかけ(2回/月朝礼)
	削減廃棄物の削減	メンテ、整備による車両の長期使用	③車両整備
	化学物質使用量削減	取引先使用禁止物質の含有確認	客先要求時に取引先使用禁止物質の含有調査実施
	グリーン購入の実施	グリーンサプライヤーからの調達確認	グリーンサプライヤーからの調達維持
	製品への環境配慮 その他	新規品の取り込み(8.3P以上/月平均) リポート品2P 単品5万以上1P 材料費見直し 月末在庫の確認	同左
機械一部門	二酸化炭素排出量削減	電気使用量の削減と監視 エコ通勤の呼びかけ	省エネ実績表による節電の管理
	廃棄物排出量削減	廃油量削減2.14t/月平均以下★ 機械備品の長期使用	廃棄物削減把握・管理と油漏れ対策
	水源投入量削減	節水の呼びかけと監視/70t/月平均以下	バレル工程短縮による削減
	製品への環境配慮 その他	楽商による工数チェック 加工時間短縮・ 工程短縮・治具化	工程表による工程管理加工合理化 (工数削減)
機械二部門	二酸化炭素排出量削減	省エネ実績表で節電の実施	同左
	廃棄物排出量削減	設備の日常点検/定期点検の点検実施 設備の精度点検(毎日の加工寸法変化監視)	各設備日常点検実施/定期は6・12月に実施 毎月の加工品寸法変化監視(日報記録)
	水源投入量削減/化学物質使用削減	節水呼びかけと給水量の監視 化学物質入り溶剤の使用量監視	給水量把握 マン835L 洗浄220L 使用量監視、維持・管理
	製品への環境配慮 その他	工程時間削減 作業方法の検討と実施、品質確認	工程時間短縮 1件/月以上作業方法の検討と実施、品質確認
技術部門	廃棄物排出量削減	機械備品の長期使用	①予防保全を考慮したコンプレッサーの日常定期点検の実施(1回/月) 年次点検(業者) ②整備点検教育の実施 技能検定受検
	製品への環境配慮	売上利益UP	①新規品の取り込み 3件以上/月 ②治具製作経費分析・削減/治具検討 レビュー時チェック実施
		工程時間削減・合理化による負荷削減	①工程削減治具製作 ②外段取り構築(シミュレータ活用と作業の標準化 作業標準書1件以上/半年)
	その他	エコ通勤の維持・継続	
組立部門	二酸化炭素排出量削減	エコ通勤の呼びかけ 電気使用量の削減と監視	同左 省エネ表作成
	廃棄物排出量削減	定期点検・日常点検による機械備品の長期使用	設備点検表による日常点検の実施
	化学物質使用量削減	主要有機溶剤使用量削減	主要有機溶剤使用量の監視
	製品への環境配慮	工程時間削減のための改善	同左
品質部門	製品への環境配慮 その他	不良損金の削減 35万(24万)/月 以下 ★ ※24万は当初計画	①不良損金集計表作成 ②不良発生原因の調査、対策実施の確認 ③不具合対策票の発行
		エコ通勤の実施	7回/月以上

6 環境目標の実績

2017年 環境目標実績

目 標	月間目標値	結果	達成状況
電気料金削減・デマンド管理	ピークデマンド350kw以下	323kw月平均	○
エコ通勤の維持継続/ エコドライブの実施	エコ通勤月平均 28日 (1・2・12月除く)	75.2日/月	○
可燃ゴミ削減・廃棄物管理	ゴミ157kg/月 廃油2.13t/月	ゴミ151.9kg/月 廃油1.55t/月	○
機械・備品の長期使用	4部門目標値	48-48(100%) (月間部門目標達成状況)	○
水源投入量維持・管理	110トン/月以下	111.5トン/月平均	△
取引先使用禁止物質の使用中止	活動維持	継続中	○
グリーン購入維持	活動維持	継続中	○
売上・利益UP(経費削減)	部門目標3部門	36-35 (97%) (月間部門目標達成状況)	○
工程時間削減・環境負荷削減の工夫	各部門目標4部門	48-46 (96%) (月間部門目標達成状況)	○
不良損金削減	35万/月(3月に変更)	468,721円/月	×
評価の基準 ○は達成・継続中 △は目標値10%未満 ×は10%以上開きがあり未達 -は評価不能 また各部門目標達成状況については累計で80%以上なら○ 50%以下× 他△			

*** 2017年環境目標の達成状況報告 ***

-----環境目標は、ほぼ達成できたが課題あり-----

中期3年計画の2年目、10の大きな環境目的のもとにそれぞれ部門ごとに対応する具体的目標をかかげて活動を行ってきた。昨年に比べ生産活動が増える中、不良損金削減目標以外は年間を通じほぼ目標達成出来た。しかし大きな課題として不良損金削減目標は3月に変更したにもかかわらず2年続けて達成出来なかった。

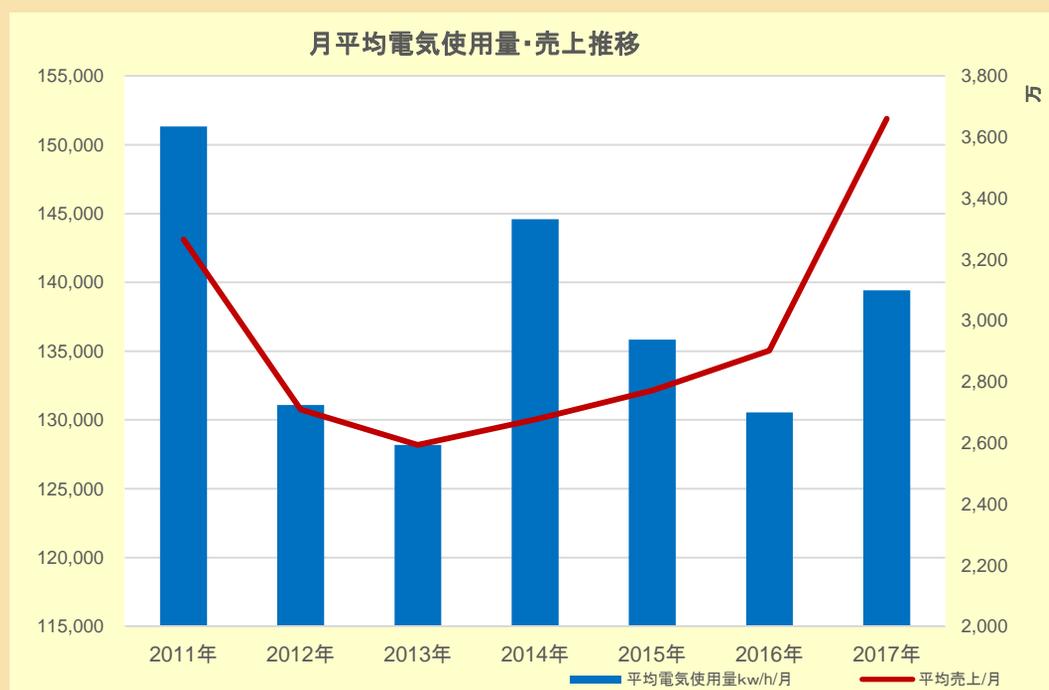
7 環境活動計画の取組結果の評価、次年度の取組内容

1) 環境活動計画の取組結果の評価 ----- 6項目

1 二酸化炭素排出量の削減 目標 ①電気料金削減・デマンド管理 ②エコ通勤の維持継続

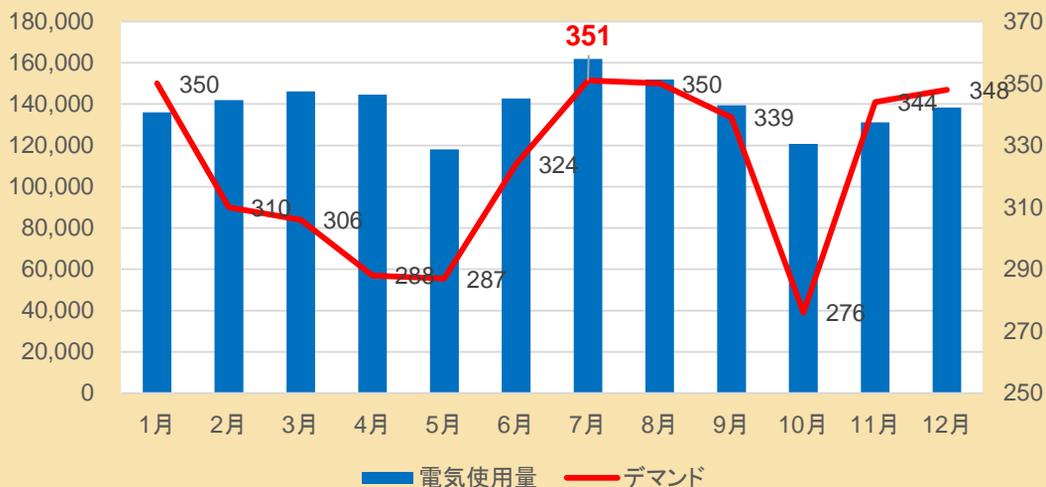


※2016年～排出係数0.358(日本テクノ(株))



※当社の場合、コスト削減の中心は電気の使用量削減であり、特に夏と冬のエアコン稼働が大きく影響する。今年は生産額は26%の大幅アップ(年換算)にかかわらず、電気使用量は7%の増加にとどまり満足いく結果だった。CO2排出量についても同様である。

月別電気使用量・最高デマンド



①目標 ピークデマンド350kw以下・・・ 結果11月達成1月未達

※ 2017年は6月から大幅増産になり、機械設備の稼働率が上がったため電気使用量は増えそれに加えて梅雨明け時の午後の冷房の集中化のため、デマンドを制御できず、7月に351kwを記録してしまっただ。その後は職場毎エアコンのローテーション等対策をとることでデマンドはぎりぎり抑えることが出来た。

月平均エコ通勤日数

エコ通勤日数・削減CO2量

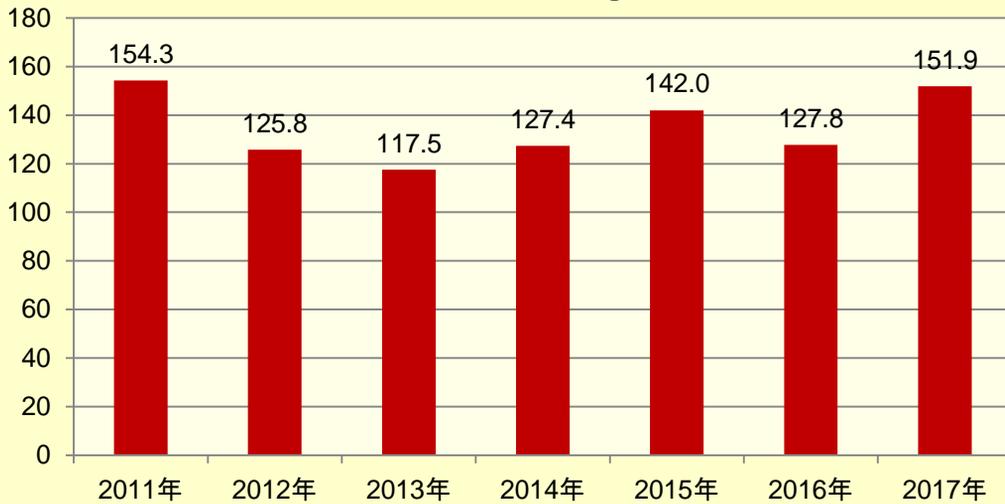


②目標 エコ通勤日数月28日以上・・・ 結果75.2日→達成

※9月には恒例の長野県主催の「ノーマイカーウィーク」に参加した。またマイカー通勤から電車通勤に替えた従業員や徒歩通勤継続者がいたため大幅にエコ通勤日数が増え好結果になった。

2 廃棄物排出量削減

平均可燃ゴミ排出量kg/月



平均廃油排出量t/月



①可燃ゴミの削減について、全社で再生ゴミの仕分けを徹底維持

数値目標157kg/月 結果151.9kg/月----達成

②廃油量削減について、機械一・二部門対象 日常点検での油漏れ対策実施、継続中
(廃油引取分)

数値目標2.13t/月----- 達成

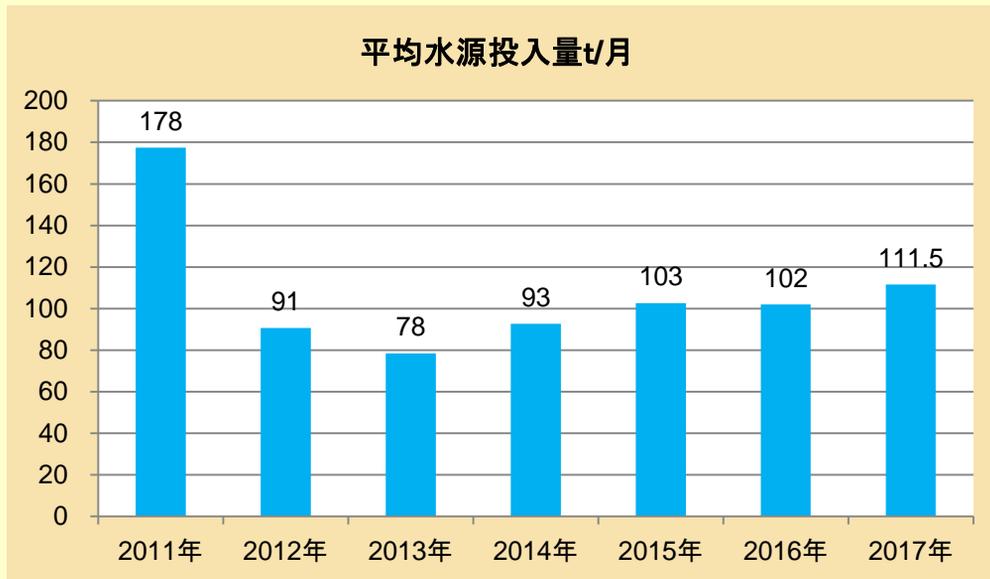
①②とも売上が増えた中で昨年に比べ排出量は増えたものの目標値内に維持できている

③機械備品の長期使用について、各部門定期点検・日常点検の実施、メンテの実施等を継続中、
また設備の精度点検の実施や設備点検教育を実施した(機械二)

4部門でそれぞれ目標を掲げ活動をしてきた。

-----全部門目標達成

3 水源投入量削減 **目標 水源投入維持管理**



数値目標110t/月以下 結果111.5t/月・・・ほぼ達成

※毎月機械部門での月々の水の使用量の報告(機械職場内に4箇所加算メータ設置により正確な使用量の把握ができ、結果11月に大きな漏水箇所がみつき対策を実施出来た。この漏水対策は今後大きな効果が期待できる。

また昨年到现在老朽化による漏水等の問題のあった2Fの男女トイレを改修した。(5月)

4 化学物質使用量削減 **目標 取引先使用禁止物質の使用中止** **達成**
 総務・管理部門 維持継続中

5 グリーン購入の実施 **目標 グリーン購入の維持** **達成**
 総務・管理部門 維持継続中

6 製品への環境配慮;

①工程時間削減又は合理化による負荷・無駄の削減 **ほぼ達成**
 それぞれの目標値をもって4部門で活動

②売上・利益アップ **ほぼ達成**
 3部門対象

③不良損金削減 **目標35万/月以内** **未達成**
 品質管理部門が主管となって数値目標を掲げて活動中、
 1月・2月に大きな不良損金が発生し目標値を変更したが6月に
 大きな不良損金が出て昨年到现在達成出来なかった。
 次年度へ対策を含めて継続していく。

2) 「環境への取組み自己チェック」の分析評価

分類項目	取組施策	評価点		満点数		取組実施率(%)	
		前回	今回	前回	今回	前回	今回
1.事業活動へのインプットに関する項目	1)省エネルギー	147	149	150	152	98	98
	2)省資源	26	34	36	40	72.2	85
	3)水の効率的利用及び日常的な節水	16	22	16	22	100	100
	4)化学物質使用量の抑制及び管理	38	38	38	38	100	100
	小計	227	243	240	252	94.6	96.4
2.事業活動からのアウトプットに関する項目	1)温室効果ガスの排出抑制、大気汚染等の防止	16	16	18	18	88.9	88.9
	2)廃棄物等の排出抑制、リサイクル、適正処理	80	80	86	86	93	93
	3)排水処理	10	10	12	12	83.3	83.3
	4)その他生活環境に係る保全の取組等	12	12	12	12	100	100
	小計	118	118	128	128	92.2	92.2
3.製品及びサービスに関する項目	1)グリーン購入	26	26	26	26	100	100
	2)製品及びサービスにおける環境配慮	44	44	48	48	91.7	91.7
	小計	70	70	74	74	94.6	94.6
4.その他	1)生物多様性の保全と持続可能な利用のための取組	0	0	0	0	0	0
	2)環境コミュニケーション及び社会貢献	41	41	46	46	89.1	89.1
	3)施主・事業主における建築物の増改築、解体等にあたっての環境配慮	6	6	6	6	100	100
	小計	47	47	52	52	90.4	90.4
		462	478	494	506	93.5	94.5

「分析・評価コメント」 2018年1月23日

環境への取組は、徐々にではあるが向上している。表中の数値としては現れないが、老朽化したトイレを節水タイプのトイレに改装した。工場用水として使用する蛇口に加算メータを設置し使用量を細かく把握した。局部で漏水があることを発見できた。生産量が増加したこともあるが工程内不良損金が前年より増加した。当社にとって環境に及ぼす最大の負荷として、損金の削減を主テーマとして取り組む。

環境管理責任者 平澤敏樹



3) 次年度の取組内容

「2018年環境活動計画書」の通り。

2018年 環境活動計画書

環境目的	具体的目標	責任者/対象	目標値等	2017年の主な行動計画
二酸化炭素排出量削減	電気料金削減・デマンド管理	専務/全社	ピークデマンド350kw以下	①デマンドコントローラー・スマートクロックによる監視・管理 ②エアコン稼働調整 ③節電設備検討 ④省エネ委員活動 ⑤節電表による管理継続
	冬季(12月～2月)を除いたエコ通勤の維持継続・エコドライブ実施	総務・管理部門長/全社	月平均 29日以上 ※1.2.12月を除く	①エコ通勤呼びかけ、活動報告掲示 ②駐輪場整備・自転車点検整備等 ③ノーマイカーウィーク参加 ④社用車のエコドライブの実施
廃棄物排出量削減	可燃ゴミ・廃油削減維持・廃棄物管理	総務・機械1部門長/全社	可燃ゴミ155kg/月 廃油2.10t/月以下	①リサイクルゴミ仕分け徹底呼びかけ ②月ごと結果発表掲示 ③コピー両面使用 ④電子媒体促進、配布書類削減 ⑤廃棄切削油把握削減 ⑥油漏れ対策
	機械・備品の長期使用	製造部門長	各部門目標	①予知保全を考慮した各種設備備品日常定期点検 ②整備点検教育の実施 ③各種精度点検の実施 ④レベル点検 ⑤設備保全技能教育
水源投入量削減	水源投入量維持管理	専務・総務部門長/機械1・2部門・全社	110 ^{リットル} /月以下	①毎月使用量内訳再把握 ②水漏れ点検 ③生活排水の節水呼びかけ ④月使用量のグラフ作成掲示
化学物質使用量削減	使用禁止物質の使用禁止 使用化学物質削減管理	管理部門長 製造部門長	維持 部門目標	①使用禁止物質の含有量調査(客先調査協力時)記録(管理部門) ②新規溶剤等購入時にSDS取得 ③主要溶剤・切削油管理・削減(製造部門)
グリーン購入の実施	グリーン購入維持	総務部門長 管理部門長	維持	①グリーンサプライヤーからの購入維持 ②グリーン調達基準に基づく購入継続
製品への環境配慮 その他	売上・利益UP	総務・管理・技術	各部門目標	①新規品の取り込み、新規開拓 ②材料費の見直し ③経費分析 経費節減
	工程時間削減・ 環境負荷削減の工夫	製造部門長 技術部門長	各部門目標	①工数把握 加工時間短縮 ②工程管理表の有効活用 ③プログラム修正 ④工程削減治具製作 ⑤外段取りの構築 ⑥環境負荷削減の工夫・検証
	不良損金削減	品質管理部門長	品質目標と同じ 34万以下	①不良集計表の作成・掲示 ②不良原因調査・対策実施 ③不具合対策表・不良損金報告書作成

8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

最新の「環境法令等遵守チェック表」の通り

2017/12 環境法令等遵守チェック表

適用法令	項目・条文	内 容	対象品・施設	チェック結果
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 : H26.6.13改正 (H23.4.1施行) 水銀に関する水俣条約 (H29.8.16)	12条2 (産業廃棄物保管基準)	1保管場所の囲い、構造耐力安全であること 2必要な事項を記載した掲示板60×60以上 3保管場所からの産廃の流出等防止、保管場所の衛生管理 運搬又は処分を委託する場合には収集運搬・処分を受けた業者に委託	・ゴミ置き場 ・廃油置き場 ・危険物置き場	総務部門 1確認済 2確認済 3確認済 確認済
	12条3 (委託の基準) 12条の3 (産業廃棄物管理票) 12条7	1産廃委託する場合種類ごと、運搬先ごと引き渡し時に必要事項を記載してマニフェストの交付とその写しの回収(90日、最終処分180日)回収出来ない場合の措置と報告義務 2 マニフェスト(写し)の5年保管 3マニフェスト発行状況の報告を毎年6月30日までに都道府県知事へ提出 産廃物の処理状況の確認と適正のための必要処置を講ずる(努力義務) 廃棄物保管場所の掲示板表示 「水銀使用製品産業廃棄物」	委託契約書 許可証 マニフェスト(管理票) マニフェスト報告書 1F 廃蛍光管置き場	1確認 2保管中 3提出済 (2017/6/7) 2017/11/27 電話で確認 2017/12/1確認
家電リサイクル法 H23.6.24改正	6条 (事業者の責務)	特定家電長期使用、排出抑制 廃棄の際、適切な引渡し・料金支払	テレビ・エアコン・冷蔵庫 洗濯機	総務 2017/11 ブラウン管 テレビ廃棄
小型家電リサイクル法 H25.4.1		可能な場合、対象物を分別して認定業者に渡す事	携帯電話・デジタルカメラ他	総務 期間中は該当無し
水質汚濁防止法 : H23.8.30改正	12条	特定施設ではない 排水基準に適合しない排水を排出禁止 (コンプレッサーのドレイン水の油水分離)	コンプレッサー2台 排水管理	業者点検実施済 継続中(月1回)専務 問題なし
下水道法 : H26.6.13改正	12条の2	① pH9を超える処理液の場合は、水質汚濁防止法別表1の6.5酸又はアルカリによる表面処理施設に該当し、特定施設となる。(届出等必要) ②下水道には下水道基準(pH9等)を超える排水を流さない。	バレル室 第二洗浄室 工場内洗面所	機械一部門 機械二部門 ①現状該当無し ②バレル室は現在水のみ 第二工場は希釈して排水を実施中
騒音規制法 :H17.4.27改正	6条 (設置の届出) 伊那市環境保全条例 (12条)	特定施設を設置する場合市町村長へ届出 (コンプレッサー2台) 発生する騒音の規制 届け出のみ(伊那市) (70-65db以下)	コンプレッサー (37kw2台)	総務部門 届出済 H27.03.24 1台入替 2015/3/25届出済入替分 2017/9 新コンプレッサー37M6AR年 次点検済み

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 : H14.12.13	2条 5条 (排出量等の把握及び届出) 14条	第一種指定化学物質等取扱事業に該当するか (第一種指定化学物質のいずれかを1年間に1t以上取り扱うか) PRTR制度より排出・移動量の届出(6月まで) 化学物質等安全データシート(SDS)の交付の義務付け (指定化学物質の譲渡、提供無し)	把握後判定 非該当	総務部門 非該当確認 非該当
フロン排出抑制法 H27.4.1	施行規則による	①機器の設置環境・使用環境維持保全 点検・修理を行う作業空間の確保はできているか ②簡易点検・定期点検の実施をする 簡易点検 1回以上/3ヶ月7.5kw未満 定期点検 1回以上/1年…50kw以上 1回以上/3年…7.5kw以上 50kw未満 点検整備記録の作成・保存 ③フロン漏洩時の措置 修理が終わりまで充填禁止 一定以上の漏洩は国へ報告義務 ④フロン充填・回収、製品の廃棄は「第一種フロン類充填回収業者」へ委託 必要書面の交付・保存をする	各所工場設置箇所	総務部門 設置部門 ①確認OK ②簡易点検実施済み3月ごと ③漏洩無し ④該当無し

以上の通り、環境法令の遵守状況をチェックした結果、違反はありませんでした。

また過去にわたって訴訟等はありません。



2017年12月1日 総務部長 浦野 安明

9 代表者による全体評価と見直しの結果

2017年12月に実施した、「マネジメントレビュー記録」から
社長のアウトプット情報、それに伴う対応結果については以下の通り

----- 2016年12月 マネジメントレビューから -----

- 社長：① 電力使用量削減と電力単価引き下げについては、今年は大きな成果があり評価したい。本年以降もその削減に取り組んでいく。
- ② 品質活動とも共通するが、本年に於いては高額の不良損金が発生した。
これによる無駄やエネルギーロスの発生が問題で有り、来年度はこの削減に努める。
- (2016.12.20 代表取締役 平澤 一司)



対応結果

- ①一昨年より電気料金の基礎部分となるピークデマンドを350kwに引き下げた。
昨年10月以降から受注額が増大してきて特に6月以降は大幅な売上増となっていた。
今年の電気の使用量は昨年対比106%に対し売上高は126%だった。
これは電気の使用効率が高くなっていて好ましい結果となっている。
ただピークデマンドは7/21の昼過ぎに351kwを記録した。梅雨明け前の一時的な猛暑日に各職場がデマンド確定手寸前に一斉にエアコンを稼働したことでデマンドコントローラーの制御が追いつかずデマンドオーバーとなってしまった。梅雨明け後に予定していた職場毎のエアコンカットのローテーション行前の時期だったことが悔やまれる。
その後の夏場は、昨年同様エアコン停止のローテーションの実施と新電力では高価格帯となる14時-16時間の使用抑制を呼びかけた。スマートクロックの目標を30分で設定したり、日毎の使用電力使用量管理は昨年来から継続中である。
猛暑の時期と生産設備の稼働率がかなり上がった時期が重なったこともあり、夏場の節電でエアコンカットは少し無理もあったと考える。
- ②1月、2月、6月とで大きな損金を計上した。高額の不良損金は昨年以来の課題であり品質ISOとの活動とリンクして対策をしている。今年は職場内に毎日不良損金額を掲示し作業員に削減を呼びかけ、品質問題が起きるたびに緊急品質会議を開催し対策を検討してきているが、なかなか効果が数字となって現れてきていない。また各作業者の意識と作業環境の改善も兼ねて3Sにも目を向けている。



----- 2017年12月 マネジメントレビューより -----

- 社長：① 品質活動ともからみ昨年から改善目標として取り上げている高額不良損金の削減について目標以下に抑えることが出来なかった。次年度も引き続き不良損金の削減に努める。
- ② 職場の整理整頓についてクリーン化に向けて計画的にこれに取り組む。
- (2017.12.20 代表取締役 平澤 一司)

10 その他の取り組み

1 総合防災訓練と就業規則・BCP(事業継続計画)見直しを実施。

10月27日に恒例の全社総合防災訓練を実施した。

震度6の地震が起き、その後各職場の火災危険箇所でも火災が発生したという複合的な場合を想定した防災訓練はこれで7回目になる。前年同様に事前に身体確保の場所を各自確定して安全確保を行なう事や、事前に火災リスク大きな場所を選定し、そこでの初期消火の行動等を確認した。また避難時に持ち出す重要書類や電子媒体を事前に確認・作成しておくことなどバックアップの体制整備を行なった。

消火訓練・避難訓練終了後、例年通り廃油排出時の油漏れ対処の訓練を行った。

今年入社した訓練未経験者2名による実地訓練であり、ルール通りの処置ができていた。また大きな油漏れのケースへの対応もその場で説明し、油漏れ対応意識を高める事が出来た。

今後は廃油タンク以外での油漏れ事故への訓練の要望があったので、翌年の課題としていきたい。

その後の全体研修では、エコアクション21の活動状況報告と不良損金削減のための品質管理部門からの提言があった。また4年目になるBCPについて、見直し点・変更点を全体研修で確認するとともに、緊急連絡網の再整備を行い、これにあわせて災害時の連絡手段として活用する「従業員携帯カード」を最新なものにその場で作成した。

さらに10月に新たに作成した就業規則について説明を行なった。これは10年ぶりの大幅な刷新であり、母性保護や子育て支援等を大幅に盛り込んだ内容になっている。同時に有期雇用の従業員を社員に引き上げる新制度についての説明を行なった。いずれも従業員の働きやすい職場づくりに主眼をいれたもので今後のモラルアップにつなげていきたい。



2 2Fトイレ改修を行ない、トイレ環境が改善。

昨年は1Fの男女のトイレを改修し、今年は2Fの男女トイレの改修を行なった。工場建設以来のままだったトイレは老朽化した給水管の破裂や排水管の詰まり等、水漏れ事故の温床になっていた。また和式トイレのままであり、数も多く掃除もしづらく快適性からはほど遠いものとなっていた。これを従業員の数に合わせてトイレの数を大幅に省きスペースを広げ、便器を最新設備のものとし快適にした。綺麗になったトイレと洗面所はその維持のため、これを期に職場毎にトイレ当番を決めて3S活動の基本の場所として取り組んでいる。